

第3回 富津公園における「整備等の基本的な考え方」検討会議

議事要旨

1. 開催日時場所

日 時：令和4年12月26日（月曜日）午後1時30分から午後2時30分

会 場：プラザ菜の花 4階 楨

2. 出席委員

阿部伸太委員、内山達也委員、義崎哲也委員、粕谷達郎委員、椎名誠委員

相澤修一委員、斎藤和義委員（代理 岩崎美貴委員）、

堀口正昭委員（代理 伊藤等委員、平柳好一委員）、前田尚志委員（代理 屋宜哲也委員）

井上宣之委員、田村英記委員（代理 松澤好晃委員）

3. 傍聴者

5名

4. 議事

【報告事項】

（1）「整備等の基本的な考え方」（素案）について

事務局 別添資料にて第1回及び第2回委員会の振り返り、民間事業者及び利用者ヒアリング／アンケートの結果、「整備等の基本的な考え方」（素案）を説明。

【審議事項】

（1）素案に対する意見交換

事務局 最初に、出席できなかった委員の意見を紹介させていただく。

「公園なので、どこまでを含むかといった前置きはあるが、富津岬の先端でのマリンスポーツをリストに挙げてもいいのではないか。次に、公園の賑わい創出のところで、地元とも連携が必要という言葉があるが、確かに漁協さんなどとの連携は非常に重要である。豊かな自然や近代遺構の活用では、プラタモリで放送されていた独特な地形の成り立ち、軍事遺構、海保の歴史、構造が学べるような施設があってもいいのかなと思う。最後に、保安林と公園の共存ということで、美しい景観を形成しつつ保安林の機能維持を図るなど、相乗効果をアピールしてもよいのではないかと。」以上が委員の意見である。

委員 資料3で、メインアクセス、マラソンコースと記載があるが、明治百年記念展望塔に行くには、車等で行かれる方が多く先端には駐車場もあるが、マラソンコース、遊歩道の区分けをする必要がある。前回からも指摘があったのではと思うが、その辺り何か考えている点があれば聞かせたい。

事務局 現状メインコースになっているところは確かに片側一車線の車道でマラソンコースとしても使われている。どこまでできるかわからないが、安全に走れる場所の提供というのは必要であると考え

- 委員 マリンスポーツ等で公園の先端まで行くとなるとどうしても車が必要であり、また、マラソン合宿のメッカになりつつあるので、これから施設ができてきて人が多く訪れてくるようになると、安全面での問題も出てくると思う。やはり、事前にかなり慎重にゾーニング設定をした方よいのではないか。せっかくの良い計画なので、スムーズに分けられるような形が一つ大事なのかなと思う。
- 会長 確かにメインアクセスはこれでいいかもしれないが、マラソンコースは回遊性が多分出てくると思うので、例えば黄色とか別ラインで区別されていてもいいのではないかなと思う。例えば、カナダのバンクーバーのスタンレーパークは、自転車とジョギングと歩行者がペイントでわかりやすく分けられている。具体的に整備していくときはそういった配慮が必要となる。今の段階での基本方針の書き方としてはもう少し工夫してもいいのかなと思う。
- また、欠席委員からの意見で、地元の方々との連携で漁協という言葉が具体的に出ていたが、マリンスポーツが入ってくる一方で、地元で漁業をされている方々との折り合いやお金が地域に落ちるような飲食や物販など、そういった連携は必要となってくるかと思う。
- 委員 地元との連携は必ず行っていただきたい。今回検討している施設は、基本的には観光客が相手なので、土日や祝日が賑わうことになる。平日利用として、ネットワーク環境を整える必要があるが、ワーケーション施設を導入する考えもあると思う。
- 会長 基本方針には具体的な施設が入ってきても良いのではないかなとも思っていて、同じ並びでワーケーションなどの想定される具体的な施設名やキーワードが入ってきても良いのではないかなと思う。
- 委員 富津公園と観光客、地元が連携できる施設や仕組み・取組みがあれば賑わいが生まれると思う。
- 会長 そもそも公園であれば、地元の方にとって必要な機能が必要であるという大前提がある。それが表現されているかは最終的にはチェックする必要がある。また、イベントというキーワードが賑わいのところにもう少し出てきてもよいのではないかな。
- 委員 基本方針の方向性は、ある程度網羅されているのではと感じている。地元、外部から1年中集客できるような内容が必要だと考えている。具体的に何か表現したほうが良いのではないかなと思う。
- 会長 先ほど、別の委員から漁協という言葉があったが、例えば漁協関係者の方々とうまく連携をとりながら、飲食や物販などもあり得そうか。
- 委員 富津市内には道の駅がないことから、いろいろな場所で要望する声が聴かれる。また、漁協の方からの話では、海の駅という意見もある。ただし、公園の中で出来るのかとなると非常に難しい話なのか、もしくは傍で出来るのか。そういうところを具体的にしていければと思っている。宿泊施設について、現在、富津地区の中には小さな民宿はあるが、ある程度人数を入れて対応できるような施設はないので、そういうところも含め具体的に考えていただければと思う。
- 会長 道の駅の制度に頼ることなく、独自で公園に飲食・物販施設を整備するということもあり得る。少なくとも屋内プールという施設があり、それと上手く繋げていく方向もあるかもしれない。これからの提案のクリエイティビティに期待したい。宿泊も、老朽化した研修所をどうするかという話もあり、せっかくの富士山が見える絶好のロケーションがあるので、風呂敷だけは広げておいてもいいのではないかな。
- 委員 再整備に関する利用者アンケート調査結果で、欲しい施設の中のその他の回答でコンビニとあるが、富津公園なのでどこにでもあるようなものではなく、できればもう少し地域の特色のあるものがあればいい。漁協や地元の方、もしくは観光客それぞれの立場があると思うが、やはりルール決めは必要である。観光客には有料の施設を使ってもらい、反対に地元の方なら誰でも入れる施設があった方がよい。この公園は、マリンスポーツをする方にはいい場所だと思う。今までの暗黙の了解になっていたものを、これを機にちゃんとしたルールを作り、お金が落ちる仕組みを作って、それにより公園の整備ができるような循環ができればよいと思う。どこにでもあるコンビニではなくて、景色のいいところなので、富津公園らしさが味わえる施設が良いと思う。
- 会長 飲食系が少ないという課題への対応が、コンビニというキーワードになってしまっているので、何が本質かを読み解いていけば、必ずしもコンビニでなくても、公園の景観的な良さや雰囲気を活かしたような施設やサービスがあってもいい。コンビニという言葉は使わない方がいいかもしれない。ルール化という点では、地域の方々が気楽に使える、それから観光的な視点をちゃんと併せ持つような仕掛けなど、その辺りの仕分けは必要である。いずれにしても良い意味でお金が落ちる、地元の方にとってもメリットになるような方向性が必要だと思う。
- 委員 今回、マラソンのメッカであることを初めて知った。そうであるなら、徹底的にそのことをとが

らせるのがよい。富津公園には、日本全国を見ても他にはないマラソンコースがあると紹介されるような、オンリーワンのマラソンコースがあるとブランド化され、良いと思う。

会 長 観光と一口に言わないで、少しテーマ性や物語性などそういうのを持たせていくという方向性が一つある。マラソンも箱根駅伝とかでトップクラスのチームが来ている。そのような選手がここで練習している様子を間近で見られることは、子供たちにとってみれば夢がある。地元の中高生にとっても、将来をデザインしていくときに何か参考になるような物語を描きながら、公園としてマラソンを後押ししていく。場合によっては、スポーツ系の施設やショップなどがあっても良い。そうすると、プログラムや自主事業などとしてのスポーツ教室などの展開にもなっていくのではないかな。そういったことでブランド化は面白い。

委 員 宿泊施設について、今どきのホテルは低層で、小規模なコテージみたいなものが多い。自然公園内ということもあるので、大きい宿泊施設よりは、公園にマッチしたような宿泊施設が良いと思う。

会 長 ホテルもトレンドが変わってきており、安くてたくさん泊まれる一方で、少し高級化して単価を上げて稼ぐ、その時には高層化ではなく、低層でも質の高いものがトレンドになっているので、そういった方向性もあっていい。富津の景観、海、富士山、保安林を含めた緑などのポテンシャルを活かした宿泊施設にすれば、事業者判断にはなるが、客単価を上げるという可能性はあるかもしれない。また、保安林だが、散策路やトレッキングなどのルートとして使わせていただくことがあってもいいのでは、という話は色々いただいているところである。

委 員 保安林については、資料3の保安林内をゆっくり歩けるような散策路や海沿いのランニングコースの整備と記載があるが、積極的に整備するという立場ではないが、この記載方法で保安林をうまく活かしているのかなと思っている。

会 長 保安林の本来の目的からすると思い通りにいかない部分はたくさんあると思うので、その辺は最大限尊重しつつ、その一方でもう少し使えるといいというような市民や県民の要望等を踏まえたいので、検討をしてもいいのではないかなと思う。丁寧にお互いの意見を聞きながら、折り合いをつけていく必要がある。

委 員 海岸管理者としてはこちらのビーチウォークの辺りが、どうしても砂浜に近い場所での整備になるので、どのような作り方になるか調整させていただきながら良いものができるように確認はしていきたい。個人的な意見として、富津の重要なコンテンツとして潮干狩りがあり、県内外から多く人が来るので、そういった人たちが滞留できる施設があればよい。例えば船橋はBBQ場が近くにあり楽しんでいる。漁港との連携もあると思うが、検討してもいいのではないかなと思う。

会 長 ビーチウォークについては、保安林と同様に安全性やいろいろな規制の中でどう折り合いをつけていくかが必要である。その一方で、森や海があることが実感できるということが、県民の方々にとってもすごく大事だと思う。自然が堪能できなければあっても意味がない。緑がまとまってあるということは、例えばヒートアイランドなどから言えば面的な緑の広がりがあることはすごく大事であるが、それは市民にとっては上空から見ないと分からない話である。それが身近に感じられるためには、少しでも入って行ける、少しでも触れられることが大事だと思う。潮干狩りについても、想定されるアクティビティ施設ということで、場合によってはBBQとセットでキーワードとして出てきてもいいのではないかな。キャンプ場は意見として出ているが、どこかに記載してもいいのかもしれない。

委 員 マリンスポーツについて議論があったが、夏場の海水浴の利用については地元協議会を設置し、調整しているところである。マリンスポーツやアクティビティなどは魅力があるが、そのための施設の整備には時間がかかるのかなと思う。漁港や海上保安庁、消防など安全安心の方も絡めて、丁寧な議論をしていく必要があるのではないかな。宿泊施設については、都心にはない海と緑と広いスペースがあるというのは千葉県の強みであり、南房総では1棟貸しの宿泊施設が観光客には人気があることから、コテージなどは良いのではないかなと思う。BBQ施設は既にあるので、差別化を図り高級感を出すなら、グランピングなどの方向性もあるのではないかな。海辺の温浴施設は、過去富津公園にも温泉施設があったという話もあることから、集客力のあるサウナ・岩盤浴が考えられる。温泉はどこからでも集客できるので、日帰り客の取込みと滞在時間の延長を狙えるのではないかな。全体の方向性としては、ヘルスやウェルネスをテーマに、公園の自然環境全体がレジャーとなるように、機能分担をした整備の方針でいくといいのではないかな。

会 長 事業者からの要望の中にもあったが、地元やいろいろな関係の協議会のようなプラットフォーム

をつくり、人と人をうまく調整していく仕掛けというのも大事だと思う。宿泊施設や温浴施設やプールなども一体的に整備することもあり得ると思う。

委員 全体的な方向性は良いと思う。一点確認したいのが、現状マリンスポーツで、水上バイク等が行われている場所が概要版の図の見事な眺望エリアのところ重なっているが、棲み分けを今後どうするのか気になっている。

会長 先ほどルール化の話があったが、既存の規制と調整していく必要はある。基本方針の中で別途項目立てをして、地域連携のための協議会などと併せて整理すると良いのかなと思う。ウェルネスという言葉も出てきたが、肉体的なウェルネスだけではなく、心も含めて眺望や景観、自然そういったものも大事になってくると感じている。

皆さんの発言の中から出てこなかった話として、歴史的な部分、砲台があった辺りをどう扱っていくかというのも大事なところかと思う。資料に歴史学習というキーワードが入っている。以前、視察した時にいただいたパンフレットには、列車砲みたいなのが出ていた。これをどう扱っていくかは非常に繊細な部分もあるような気がする。そういった負の歴史という部分をどこまで見せていくのかは、非常に難しい問題ではある。例えば、列車砲を全面に出していくと、それを評価していると捉えられてしまうこともある。ただ一方で、そういった歴史を繰り返さないように、教訓とすることも大事な部分である。例えば、ドイツではホロコーストをきちんと受け止めて、ドイツの街の中に四角いキュービック状のものが並んだモニュメンタルな広場を作っている。モニュメントは、低いものもあれば身長をはるかに超えるものなどがたくさん並んでいて、細い通路を抜けていくことができる。その時に、その交差点のどこで人とぶつかるか分からず、そういった恐怖心を当時のユダヤの方々の気持ちに置き換えていく、というような施設になっている。こういった歴史を繰り返さないという強いメッセージを、博物館や掲示板やサインという直接的な方法ではなく、風景として収めていくということをしている。これは一つの方向性なのではないか。歴史をどう受け止めていくのかということも少し考えておく必要がある。歴史学習というのが、もう一歩大きい話から踏み込んだ表現があってもいいのかなという気がした。

委員 富津の地形の成り立ちや歴史遺構の学びの場を、公園の施設の中に、ビジターセンターとして整備して見せていくというのも一つの方法としてあるのではないかと。

委員 歴史遺産の話で、平和学習目的の教育旅行で、悲惨なことがあったその場所で、今後同じことを繰り返さないようにしようという学習をしていると思うので、そういう目的で利用できたらよいと思う。自然保護については、オーストラリアのグレートバリアリーフではいろいろな島を観光で使っているが、必ず案内ガイドがいて、自然の機能や役割、生息している動物の説明をしながら、自然保護の必要性を普及している。日本の場合、保護区域は立入禁止にしている。ただし、ガイドにはコストがかかるので、お金が落ちる仕組みを作らないと運営自体が成り立たないのではないかと。ルール作りをしていくことが大切であり、いろいろな提案が入っており、全体のバランスをとるのは難しいと思うが、せつかくなので良いものを作ってほしい。

会長 皆さんに案を出していただいているところだが、今後これを取捨選択し物語として整えていく必要があると思う。例えば歴史遺産の話、スポーツとの関係で、平和であるからこそスポーツがのびのびとできるというような話もできる。お金の問題もあるが、自然保護の普及も含めてビジターセンターのような施設も必要であると思う。地域に地元のことを伝えていく人を育てていくことも必要である。アメリカのナショナルパークでは、そういったガイドがいる。イギリスのフットパスでは、ビジターセンターに安いがすごく魅力的なパンフレットが売られている。建物もやはり雰囲気がある。予習していなくても、そこに入ればたくさんのプログラムがあり、お土産が買える、そういった仕掛けがあっても良いのかなと思う。

委員 環境教育は小中高でも非常に注目されており、富津の特徴的な岬の環境、歴史、文化を学べる場所となることで、教育旅行にも繋がっていくような気がしている。そうすると宿泊施設が欲しくなる。地元の子供たちにも、戦争だけではなく、環境や地域の特徴ある地形というところでも学びの場になるということが大事な点である。ビジターセンターは歴史遺産がある場所には必ずある施設なので、ガイドで収益を得て、それを地域の場所に還元していくことも大事である。

会長 海や森林などの自然が豊かであるということは、すごく大事な話である。SDGsや気候変動と言われても、スケールが大きすぎて分からない部分がある。この公園が、そういった身近な自然を感じる場所となり、環境問題を考えるきっかけになる舞台になると良いのではないかと。

事務局 第4回の会議は来年3月頃の開催を予定している。

以上